



初戦前の最後のグラウンド練習で、打撃投手相手に打ち込む八学光星の選手たち。11日午前、兵庫県伊丹市の伊丹スポーツセンター

# 「最後まで泥くさく戦う」

## 光星きょう明桜（秋田）と初戦

第105回全国高校野球 12日、本県代表の八学光星（秋田）が第1試合（午前8時）ア大明桜（秋田）と対戦する。選手たちは11日、兵庫県伊丹市の伊丹スポーツセンターで初戦前の最後のグラウンド練習を行った。

試合開始時間と同じ午前8時から練習をスタート。キャッチボールやシートノックの後、約1時間半、打撃練習に励んだ。選手たちは右腕の打撃投手を相手に約35球ずつ打ち込んだほか、橋谷と投手陣が充実。八学光星は県大会でもこの2本塁打の中澤恒（藤原）が得意源。左の洗平は19回で1失点と安定感がある。春季東北大会は八学光星が8-15で勝利を確かめていた。主将中澤恒は「1年ぶりの甲子園をチーム全員が楽しみにしている。しっかりと声を出して『打球を』らしく打ち勝つ野球をしたい」と力を込めた。

# 光星 打撃が鍵

「初戦で力を出し切れぬ全員で勝ち取った甲子園。最後まで諦めず、泥」と話した。（榎方好華）

▽第1試合（8時）  
ノースアジア大明桜  
秋田 八学学院光星  
明桜は球威のあるエース三振を奪える左の松橋裕と投手陣が充実。八学光星は県大会でもこの2本塁打の中澤恒（藤原）が得意源。左の洗平は19回で1失点と安定感がある。春季東北大会は八学光星が8-15で勝利を確かめていた。主将中澤恒は「1年ぶりの甲子園をチーム全員が楽しみにしている。しっかりと声を出して『打球を』らしく打ち勝つ野球をしたい」と力を込めた。

**光星**

**甲子園だより**

今春に背番号をつかみ取り、6月の春季東北大会からスタメンに定着した。夏の県大会では全試合に出場し、チームトップの打率5割2分の9厘をマークしたりドオフと、試合前は、平井大の「栄光の扉」を聴いて気持ちが高まるという。3年生は面倒見が良く頼もしい。大きな先輩たちと一日も長く野球がしたいとの夏に懸ける思いは熱い。（宮城県・岩手出身 172センチ、69キロ。右投げ左打ち）

**3年生と長い夏を**

砂子田陽士 外野手（2年）

なこたようじ

**光星の応援隊 222人甲子園へ**

第105回全国高校野球 球選手権第7日（12日）

の第1試合で、ノースアジア大明桜（秋田）と対戦する本県代表の八学光星の応援隊222人が11日、バス8台に乗り込み甲子園に出発した。応援隊は同校の野球部や希望する生徒、吹奏楽部メンバーで構成。正面玄関で行った出発式では、中村良寛校長が「明日の校歌を野球部を歌って戻ってきたら、生徒代表のチャイリングが、野球部の勝利のため精いっぱい応援し3回戦に勝ち進めるよう頑張ります」とおぼろけさせた。応援隊は学校に残る教職員や生徒らが手を振る中、同校を出発した。12日午前6時半ごろ現地に到着する予定。

甲子園に向けバスに乗り込む応援隊の生徒たち。11日